

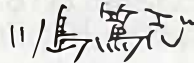
受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定（試行事業）
病院総合医養成プログラム 認定申請書

2014年 8月 12日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
 理事長 殿

以下に記載した内容で、貴学会の試行事業における病院総合医養成プログラムとして認定していただけますよう申請いたします。

申請者*署名（自署） 
 *申請者はプログラム責任者になる予定の方です

1. プログラム名称 「病院総合医」や「総合医」を含む名称にしてください			
市立福知山市民病院 病院総合医 養成プログラム			
2. プログラム責任者			
プログラム責任者氏名	川島 篤志	指導医認定番号	
所属・役職	市立福知山市民病院 総合内科		
所在地・連絡先	住所 〒620-8505 福知山市厚中町 231 電話 0773-22-2101 FAX 0773-22-6181 E-mail kawashima-a@fukuchiyama-hosp.jp		
連絡担当者氏名*・役職	*プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載		
連絡先	電話	FAX	E-mail
3. プログラムの概要			
・標準的な研修内容(ローテーション研修を含む)の例も記載してください ・アピールポイントを記載してください 地方都市における中規模・地域基幹病院では、比較的医師不足のなか、総合内科医に求められるものが多いことを自負している。 当プログラムでは、総合内科スタッフとして勤務する中で、上級のスタッフ・総合内科の専攻医はもちろん、他の臓器別専門医との協力・連携、初期研修医への指導などを通じて、以下の当院で求められる臨床を実践し、研鑽する。 ◆ 総合内科の専門性 診断学が発揮できる「内科初診外来」「日勤帯内科救急外来」を総合内科のスタッフ・専攻医が担う。その一旦を担う：年度によりバラつきがあるが、平均新患外来1コマ+救急外来3コマ 入院診療では、感染症診療や多臓器にわたる疾患といった側面のものや、臓器別専門医が対応しきれないとき(疾患として・マンパワーとして)の疾患や、当院に常勤医不在の疾患を主として担当する。この際はチーム医療を行うことにより、より質の高い医療の提供を目指す。 ◆ 臓器別専門医の負担軽減 「新患外来」「日勤帯内科救急外来」を当科が担うことにより、臓器別専門医の負担が軽減される。また入院診療においても、臓器別専門医の負担が軽減されていることを認識し、お互いに尊重・協力することにより、院内や地域全体の医療が改善されることを意識する。 なお、年度内の院内のバランスにもよるが、短期的に他の内科を研修することは調整により可能である。			

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

◆ **臨床教育・研修**
 プログラム中は自分自身が上級スタッフからの指導を受けることにはなるが、専攻医や初期研修医、他の医療従事者に対しては、常に教育を提供する姿勢を意識する。「教育力のない病院に未来はない」と考える病院長のもと、病院全体で「教える・教えられる文化」を醸成し、「教育のエンジン」を総合内科が担っていることを意識する。
 総合内科として、経験した比較的稀な疾患などは積極的に症例報告を行うことを意識する(学会発表・論文報告できなくとも、勉強会・研究会レベルでの症例検討でも行う必要性は高い)。また臨床研究の意識を持ったスタッフが複数名在籍(2012年度)していることより、症例報告以上の発表をしたいと思っているが、まだ十分な実績がない:Data分析中など。また院内での各種カンファレンスの運営も主体的に担うことを意識する。

◆ **院内の横断的な委員会**
 総合内科スタッフとして、院内の事情に合わせて、各委員会での活動が求められる可能性が高い。現在、ICT/NST/医療安全/禁煙/臨床研修/接遇/病床管理/経営改善/救急/ICUなどの委員会にスタッフが関わっている。

4. **研修期間**
 (基本的に) 2年間 (以上)

5. **研修者定員**
 1年あたり 2名 (×研修期間年数 2 =総定員 4名)
 「細則の第5条にあるように、当学会の家庭医療専門医や日本内科学会の総合内科専門医など、プライマリ・ケアを含む幅広い領域の研修を修了した医師を対象」とした場合
 2010年実績 新規研修者 1名:2010年に家庭医療専門医合格者
 2011年実績 新規研修者 1名:2011年に家庭医療専門医合格者
 2012年実績 新規研修者 1名:2012年に専門医試験受験したものあり 総数 3名
 (内訳 1年次 名、2年次 名、3年次 名、その他 名)

【参考】
 2010年 専攻医 3名 スタッフ 4名
 2011年 専攻医 4名 スタッフ 5名
 2012年 専攻医 5名 スタッフ 6名

6. **プログラムにおける指導医**
 主たる施設以外の指導医については氏名の下に施設名を記載してください

氏名	卒業年	専門分野・資格	専門分野・資格
例 山田 ○朗 ○○ひまわり病院	H12年	内科学会 総合内科専門医 消化器科専門医	
川島 篤志	H9年	内科学会 総合内科専門医 PC連合学会認定医・指導医	公衆衛生学修士: MPH
和田 幹生	H16年	内科学会 認定内科医 PC連合学会認定家庭医専門医・指導医	社会健康医学修士: MPH
鈴木 龍児	H15年	内科学会 認定内科医 日本救急医学会 専門医	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

渡邊 力也	H16 年	PC 連合学会認定家庭医専門医・指導医	
北村 友一	H15 年	内科学会 認定内科医	
		PC 連合学会認定医	

7. 施設・診療科診療実績概要 主たる施設の実績を記入してください	
病床数	354 床 (内総合診療部門定床 明確な規定はないが、50~70 床)
総合診療部門外来患者実績	初診 約 500 人/月：10 コマ/週 再診 約 500 人/月：予約外来担当 6 人の総計
総合診療部門入院患者実績	平均 約 90 人/月

8. 研修関連施設 主たる施設以外の研修先を記載してください		
施設名		研修内容
現時点では当院のみ	<input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	

9. プログラム基準	
病院総合医研修について次の要件を満たす場合は <input type="checkbox"/> を塗りつぶす(■)	
<ul style="list-style-type: none"> ■研修は、家庭医療専門医や総合内科専門医等プライマリ・ケアを含む幅広い領域の臨床研修を修了した後に開始する。 ■研修期間は1年間以上とする。 ■総合診療部門および関連の病棟診療で1年以上の研修が出来る ■総合診療部門および関連の外来診療(新患外来を含み非選択的に診ることが望ましい)半日を週1回以上、合計12か月以上 の研修が出来る ■1次および2次救急患者を診療する外来あるいは当直を10回以上 の研修が出来る ■その他選択科目(臨床研究を含む)の研修が出来る 	

10. 施設基準	
病院総合医研修について次の要件を満たす場合は <input type="checkbox"/> を塗りつぶす(■)	
<ul style="list-style-type: none"> ■一般病床を有する(病院の規模は問わない) ■4-b. 救急医療を提供している ■4-c. 総合診療部門(総合内科, 一般内科, 総合診療科など)を有する ■4-d. 委員会や診療科横断的組織が定期的に開催され活動している 	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

11. 研修者の評価方法

研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に記載してください

当プログラムが、「細則の第5条にあるように、当学会の家庭医療専門医や日本内科学会の総合内科専門医など、プライマリ・ケアを含む幅広い領域の研修を修了した医師を対象」とする場合、研修者は当院においてはスタッフとしての採用となり、その下には総合内科専攻医(後期研修医)・初期研修医を指導する立場となる。その研修者との評価は、プログラム責任者、および研修者より上司となるものとのミーティングのなかで定期的に確認するという方法を取る予定である。

12. プログラムの質の向上・維持の方法

上述したように、ミーティングのなかで、当プログラムの質の向上・維持を意識し、結果として当科や当院、地域全体の改善につなげるものとしたい。